



# 国際拠点都市新潟を目指して ～2019年G20新潟農業大臣会合での取り組み～

新潟市政策企画部 主幹 吉岡 直

## ハイレベル国際コンベンション※の 継続的な誘致

新潟市では、2008年G8労働大臣会合を皮切りに、2010年APEC食料安全保障担当大臣会合、2016年G7新潟農業大臣会合、そして、本年5月に行われた2019年G20新潟農業大臣会合と、4回連続で大規模国際会合を開催してきました。

大規模国際会合の開催は、国内外に新潟のさまざまな魅力を発信するまたとないチャンスであるとともに、宿泊施設や関係する民間企業等の受け入れ能力の向上などにも資するものです。

人口減少や地域間競争が激しくなるなか、このような取り組みを継続していくことが、結果として交流人口の拡大や経済の活性化につながり、地域の拠点性の向上に寄与するものと考えていることから、県・市連携して国際会合の誘致や開催支援に取り組んでいます。

※G7、G20、APECなど既存の国際的枠組みや数力国間で行われている官公庁主催の首脳・閣僚級会合、国際機関が行う会合など

## G20新潟農業大臣会合の概要

G20新潟農業大臣会合は、本年5月11日から12日にかけて新潟市内で開催され、34の国と国際機関の関係者が新潟に集まり、主要テーマ「農業・食品分野の持続可能性に向けて－新たな課題とグッドプラクティス」のもと、自由闊達な議論が行われました。

その成果として、増加する世界人口に対応するため、資源の持続可能性を確保しつつ、生産性を上げていくことを目指す「2019年G20新潟農業大臣宣言」が採択されました。

開催都市である地元新潟は、県、市の他、関係行政機関や経済、農業・食、インフラ等さまざまな分野から計66機関・団体が参画して設立された「G20新潟農業大

臣会合開催推進協議会」が中心となり、会合の主催者である農林水産省と協力・連携し、会合運営を支えました。



本会合の様子

## 会合における地元新潟の取り組み

世界各地から参集する代表団の方々に、新潟の魅力を知っていただくとともに、会合に気持ちよく参加していただくためにはどのような取り組みが効果的か。

新潟開催の決定以降、協議会の事務局を担う新潟市2019年G20サミット推進課では、主催者である農水省をはじめ、数多くの関係機関や企業等の協力を得ながら議論を重ねてきました。

その結果として、会合期間中は、100人以上のボランティアや地元の小中学生、延べ約200人の県・市職員を始めとする多くの関係者の協力のもと、新潟駅や新潟空港での歓送迎、会場展示での多数の新潟製品の紹介、日本の農村をイメージした歓迎レセプションでの新潟が誇る食の魅力や伝統芸能など、各国・国際機関の代表団に新潟ならではのおもてなしを堪能していただくことができました。

そして、これらの取り組みは既存のマスコミのみならず、各国大臣や大使館のSNS上に写真付きで掲載され、“NIIGATA”の名が世界に拡散されることとなりました。



朱鷺メッセウェルカムボード前でのお出迎え



新潟産コシヒカリおにぎりを紹介するボランティア

## より多くの県民・市民にご理解いただくために

このような国際会合は、各国・国際機関の要人が集まるため、高いセキュリティレベルが確保されなければなりません。

その結果、会合に参加できるのはボランティアなど一部の方々に限られ、大多数の市民に対しては、会場周辺での交通渋滞の緩和や周辺道路での検問への協力など、一定程度のご不便をおかけすることとなります。

このようななか、一人でも多くの方々へ会合を知っていただき、各国代表団を温かく迎え入れる体制を構築するため、さまざまな取り組みを展開してきました。その一例を以下に示します。

### ■メインビジュアルへの県民・市民の参画

「G20 モザイクアートプロジェクト」で集まった新潟にゆかりのある方々の笑顔の写真約 1,000 点を使ったモザイクアートのポスターやPRパンフレットを作成し、会合の開催周知と機運の醸成を図りました。

### ■会合アフターツアー・子ども記者による取材

会合に協力していただいた児童、生徒やボランティアの方々へ、会合終了後の本会場場や展示の視察、コーヒープレイクで提供されたスイーツの試食を行い、会合

をより身近に感じていただきました。また、G20 子ども記者が会合の様子を取材し、地元新聞に掲載されました。



モザイクアートポスター



各国大臣の座席で記念撮影をする子どもたち

## 国際拠点都市新潟を目指して

過去に複数回、大規模国際会合を開催してきた経験はあるものの、34の国・国際機関が参集し、さらに多種多様な文化的背景を持つ国々を受け入れるのは初めてのことです。

さまざまな困難やいくつかの想定外の出来事はありませんでしたが、これらの経験が結果として民間を含めた関係者の受け入れ能力の向上やスキルアップにつながったことは、大きな財産であったと考えています。

また、未来を担う多くの子どもたちが、直接的にも間接的にも G20 新潟農業大臣会合に関わり、さまざまな経験を通じて国際社会に関心を持ってもらえたことは、新潟の未来にとっても大変有意義なことです。

このように地域が一体となって開催するハイレベル国際コンベンションは、国際拠点都市を目指す本市にとってさまざまな効果をもたらすものであることから、これからも継続的な誘致に取り組んでいきます。